

図書室だより

尼崎市立難波小学校
図書室
令和4年12月号

「タブレット」と「本」の両輪で!



音楽会が終わりました。どの学年もその学年らしさが出ていて、いいなあと思いました。偶然に出会った仲間たちと奏でた音楽は、世界でひとつだけですからね! 私は、それを聞かせてもらえたのですから、みんな、がんばってくれてありがとう! の気持ちです。

4年生に聞いてみました。私「音楽、苦手な人?」数人の手があがります。私「音楽会でみんなと歌を歌ったり、演奏したりしてどうだった?」「楽しかった!!」「ちょっとぐらいまちがえても大丈夫って思えた! みんながんばってるから!」多くの人のがんばりが、苦手だなあと思っていた人の気持ちを、楽しいに変えていったんですね! すごいなあと思いました。

図書室での皆さんの姿は、自由で自然体です。また、集中して本に自分に向き合っている姿も見ることができます。音楽会での皆さんの姿は、みんなでがんばる姿。私にとってはとても新鮮にうつりました。

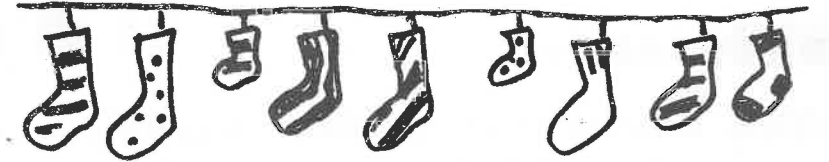
さて、タブレットでの学習にも、すっかりなれましたね。子どもたちは、習得がはやいです。タブレットは、結果や答えが一瞬で出ます。本当に便利です。時代の流れも速いし、子どもたちの学習内容もどんどん増えているし、これからの社会生活も学習方法もスピード感が必要です。それに対応しようと思えば、タブレットを使いこなせなくてはなりません。

しかし、最近、私を感じていることがあります。それは、私の選ぶ読み聞かせの本が、少し長めの本だと、退屈してしまう人が出てきたなあということです。あー、子どもたちの頭の中が変化していつているのかなあ...と感じてしまいます。本を読みながら、ああでもない、こうでもない、考えをめぐらしながら答えをさがす、こういうことって大事な気がしています。この場面でこの人はどんな気持ちなんだろう? こんなことを自分の頭で考えるのは、社会生活をするうえで、とても大事なことですよね?

「文章を読んで、理解する」「自分の頭で考え抜く」こういう学習もしてほしいと思います。大変粘り強さが必要ですが...

車でさっさと目的地に行く、これが「タブレット学習」でしょうか。いろいろなものを見て、聞いて、感じて、自分の足で歩く、これが「本を読むこと」でしょうか。「タブレット」と「本」、両輪で学習していけるといいですね。

図鑑の魅力



1年生との会話

私「図鑑貸してください。」

私「図鑑は貸せないのよ。赤いシールはつてあるでしょ。」

私「なんで?」

私「(でた! なんで攻撃。)」「だれかが何かを調べたい時に貸出中だったら、調べられないでしょ?」

私「ほかにも図鑑あるけど...」

私「(たしかに...)」「うーん、図鑑はね、尼崎中央図書館でも貸出禁止なんだよ。小さい図鑑でがまんしてくれる?」

私「わかった...」(なっとくはしてない表情)

3年生との会話

私「せんせー、はちゅう類の図鑑借りれる? ヤモリかってるねん!」

私「んー、はちゅう類のポケット図鑑はないなあ。」

私「えー、そうなん...」

私「注文せなあかんね。」

私「やった! 買ってくれるん? お願いします!!」



何年生だったか忘れたのですが...

私「これ、もう一回借りてもいいですか? 今ここまで読めたから!」

私「えっ、読んでるの? いいよ、借りて、借りて。」

「図鑑」って、調べるものだと思っていました。この子は、「図鑑」を読んでいたのですね。最初からペラペラページをめくって、楽しみながら、写真をながめている姿が目につきました。子どもの時間はゆっくり流れていますね。 「図鑑はペラペラめくって楽しむもの」と、子どもが教えてくれました。

DVD付き図鑑『LIVE』は、図書室に置いたままだとDVDを見ることもないので、貸出できるようにしました。なかなかの人気です。